

アグアスだより

2014年04月号

時代の要請と学校の教育課題

”65%” 何の数字でしょう。「今の小学生が、大学を卒業するときに、もっか存在していない職業に就いている割合」です。デューク大学教授の予測です。(昨年ニューヨーク・タイムズ紙)。目の前の子どもの6割が、私たちの知らない職業に就いている、という予測は衝撃的です。今の小1が大学を卒業するのは、16年後のことです。では、私たちの16年前を考えてみましょう。スマートフォンは、私たちの生活を大きく変えました。でも、16年前に、スマホがこれだけ普及するとは、だれが予測したでしょう。ましてや、端末でテレビを観たり、電子書籍を読んだりなど考えもしませんでした。そう考えると、この未来予測はうなずけます。それほど各分野でのイノベーション(技術革新)の進展は急激です。今後、加速していくことが予想されます。本校の児童生徒83名のうち、66名が、将来、私たちの知らない職業に就かなければならないのなら、教育もそれに応じたものでなければなりません。

そうした時代の要請に応じて、現在の学習指導要領は、様々な改訂が行われています。「言語活動の充実」「理数教育の充実」などですが、なかでも「外国語教育の充実」がひときわ目につきます。小学校に「外国語活動」を導入し、中学校でも英語の「読み・書き、話す・聞く」技能習得を充実させているのです。しかも、すでに多くの報道でもご承知のように、こうした傾向は、今後いっそう加速

していくものと思われます。地域によっては、それらを先取りして、英語の時数を増加させている学校も多いのです。本校も、そうした時代の要請に応じて、今年度から英語の授業時数を小学校・中学校で増やします。そして、英語のALT講師を2名に増員し、授業の内容向上に努めます。

時代の要請は、もうひとつあります。子どもたちは、将来社会に出て、今以上にグローバル化や国際化が進んだ社会で仕事をしなければなりません。日本の経常収支の現状を見れば、海外からの所得収支依存は、もはや定着化しつつあります。ここで大事なのが働き手の国際性の涵養です。しかし、日本の子どもや大人の多くは「内向き志向」です。海外への留学生も激減しています。そのために、日本人学校で学ぶ子どもたちには、将来の海外進出のかじ取り役になってもらわなければなりません。本校は、昨年度の実践報告会でも発表したように、「海外にある学校」の利点を活かして、現地理解や国際理解をうながす国際教育を推進していきます。そして、子どもたちの国際性を涵養して、未来の日本を担う国際人の育成に努めていく考えです。

さて、いつの時代にあっても、学校教育には、「不易と流行」の二つの側面があります。今求められる「流行」とは、国際化や情報化などの社会の変化、時代の要請に対応した教育を進めることでした。今改めて考えなければならない「不易」は、社会の文化の伝達機能としての、教育の使命を再確認することです。具体的には、学校が「真に担うべき役割

を明確にし、学校の教育課題に応じていくことです。

そのひとつは、確かな学力の保障です。いかえれば、基礎的・基本的学力の確実な定着です。「学校はごく当たり前のことを勉強する場」ということを、もう一度確認しなければなりません。今年度、学校は、国語・算数（数学）の時数を増やします。そして、教科指導の研究を通して、子どもたちの学力保障に努める考えです。また、学習塾など、学力を補完する機関のない当地では、学校が唯一の専門家集団を擁する教育機関です。そのため、子どもたちの学力保障にはそれだけの責任があります。したがって、子どもたちの学力の実態を分析し、結果によっては補習指導を充実させるなど、様々な方策を講じていく考えです。

もうひとつは、社会性の育成です。子どもたち同士が集団で学び、集団で生活する経験をさせられるのは、学校以外にはありません。とりわけ、帰宅後に子どもが自分の意思で自由に遊べる環境にない在外教育施設にあっては、学校が中心になって、豊かな人間関係づくりと社会性の育成を推進しなければなりません。困難な課題であっても、子どもたちの社会性を育成する活動を、教育計画の中に意図的・計画的・継続的に組み込んでいく考えです。

「不易流行」は芭蕉の言葉です。芭蕉は、時を経ても変わらないものを「不易」、時とともに移ろいゆくものを「流行」として、不易の中にも、流行を取り入れることが、物事の本質だと述べています。今年度、本校は、時代の要請に応える「流行」と、時代を超えて不変の課題に応える「不易」を、共に大切にしながら、学校の運営を図っていく考えです。

昨年度の「継続と発展」に続き、「時代の要請と学校の教育課題に応える」教育に邁進していきます。今後とも、よろしくお願いいたします。

保護者室を設定します

PTAの会議や作業、学校に来られた保護者の待機場所として、保護者室を設定します。教室は、多目的室、家庭科室です。それら特別教室の空き状況を前の週に表でお示ししますので、その表をご覧ください。井戸端会議も歓迎です。ただし、小さいお子様をお連れの方は、ご自分のお子様の管理をよろしくお願いいたします。実施は、全体保護者会以降とします。

4月行事予定

- 10日（木）着任式、始業式、入学式
- 11日（金）4時間授業
- 14日（月）4時間授業
- 15日（火）開校記念式、英語授業開始
通常授業開始（小2～）
- 16日（水）健康診断
- 17日（木）全校体育開始
- 18日（金）通常授業開始（小1）
NRT学力検査（小2～）
緊急引き取り訓練
- 21日（月）スペイン語授業開始、PTA総会
- 23日（水）4時間授業
全体保護者会、学級懇談会
- 24日（木）体力テスト、委員会開始
- 25日（金）祝日
- 28日（月）4時間授業、家庭訪問
- 29日（火）避難訓練
- 30日（水）4時間授業、家庭訪問